

## 各包括支援センターから提出された 高齢者を取り巻く地域課題

### 1 高齢者の生活支援について

- (1) 公共交通機関の使い勝手（便数、乗り場までの距離、乗降の負担、料金等）が悪く、気軽に利用できない。自家用車に頼らざるを得ず、高齢になっても免許の返納が進まない。
- (2) 近所の商店やスーパーが閉店し、気軽に買い物できる環境でなくなった。注文販売を利用する人もいるが、自分で直接見て品定めしたいとの声が多い。

### 2 高齢者サロンについて

- (1) 内容がマンネリ化し、役員が苦慮している。充実を図りたいが何をしたら良いか分からない。特に介護予防に関しては、運動等の指導者を継続的に無料で招致することが難しい。
- (2) サロンの必要性は感じているが、暖房設備・トイレ等が整った適当な場所が無いため、実施に至っていない地区がある。
- (3) リーダー的な人材が減少し、新規の立ち上げが進まない。また、役員がさらに高齢化し、後継者も不足しているため、存続が困難となるケースも出てきている。
- (4) サロンの実施を含め、地域づくりの取り組みに地域差がある。
- (5) サロンまでの移動手段がない。

### 3 一人暮らし高齢者・高齢者世帯支援について

- (1) 集合住宅には、自治会に加入していない一人暮らしの高齢者が多く、地域とのつながりや住民相互の見守りといったコミュニティが希薄化。閉じこもりの増加、緊急時の対応等課題が多い。
- (2) 独居や高齢者夫婦のみの世帯において、疾病や身体機能の低下、認知症の進行等により、生活全般に支障が生じ、支援が困難になる事例が増加。このうち、身寄りがなく、地域との関係も悪く、介護サービスも利用していない世帯は、孤独死や介護負担に起因する虐待等の恐れがある。

### 4 認知症高齢者の支援について

- (1) 認知症の高齢者が安心して公共交通機関を利用するための、事業者の理解に格差がある。
- (2) 自動車の運転について危険を伴うが、本人が認知症の病識や理解に欠けるため、免許の返納を拒む。（同居家族も、認識が浅い面がまだある。また、免許が無くても運転する行為ができることが問題）
- (3) 地域住民から認知症について理解が得られない場合があり、家族が隠している。
- (4) 認知症について、家族がどこに相談してよいか分からず、進行するまで抱え込む事

例がみられる。

(5) 地区の回覧板の取り扱いができない、行事等の連絡が伝わらない。